

蜃氣樓

〔書言字考節用集一〕乾坤蜃樓カキヤク蜃者介蟲蛟之屬春夏間吐氣カイロ成樓臺城郭之狀又謂之海市

〔ねざめのすさび〕蜃氣樓 本草云蜃蛟之屬其狀亦似蛇而大有角如龍狀紅鬣腰以下鱗盡逆食

中亦有樓臺之形としるせり、玄からは海中にて氣を吐ものは蛟の如きかたちせる蜃といふも

のなり、大なる蛤をも西川如見怪異辨斷云、蜃は大蛤と訓ず、然れども今俗云、蛤蜊の義には非ず、現するものな

りといへり、蜃といへるより混じて、おぼえたる人の、蛤のうへに樓臺のかたをゑがきたるを

見て、蜃氣樓なりといへるはあやまりなり、さてかの蛤に樓臺をとりあはせてゑがきたるは、繪

師のあやまりならず、別に故事ある事なり、金藏經に云、佛在膽波國迦羅池邊爲衆說法、一蛤草下

志心聽受、有人持杖悞中蛤頭、尋卽命終、生於天上、感其宮殿廣十二由旬、得宿命通知、曾爲蛤、乃乘宮

殿禮佛報恩とあり、もと死したる蛤の魂氣天にのぼりて、宮殿を見るさまをゑがきたるを、蜃樓

と見あやまりたるは、笑ふべきことぞかし、

〔閑散餘録上〕蜃氣ノ樓臺ヲナスコト、和名ヲナガフトイヘリ、長門ノ海中ニマ、アリト聞リ、吾州

ノ伊勢ノ海モ、昔ヨリ其名アリ、二三月ノ頃、天氣暖和ニシテ、風浪ナキ日ニ多クアラハル、ナリ、

コレ蛤蜊ノ氣ナリトイヒ傳ヘ、然レドモ、蜃ト蛤蜊ト同ク介類ニシテ別アリ、コトニ桑名ハ蛤蜊

ニ名ヲ得タル地ナレドモ、ナガフノ見ユルコトヲ聞ズ、但羽津楠邑等ノ海邊ニ多シ、吾友ニ楠邑

ノ南川トイヘル里ニ、山本勘右衛門トイヘル老翁アリ、コノ人ハ弱年ノ時ヨリ兩度見タリ、後ニ

見タルハ樓閣ノ中ニ、種々ノ飾リアリテ、甚奇巧ナリシト物語セリ、羽津楠ナドニモ蛤出レドモ、

桑名ニクラブレバ寡シ、然レバ蛤ノ氣ニテナレルニハアラザルベシ、楠ノ南一里バカリニ郷アリ、其名ヲ長太ト書テ、ナカフト訓ゼリ、蜃氣ニ因テ名ヅケタルナルベシ、天地ノ間ニハ理外ノ事多シ、虹ノ日ニ映ジテ青紫ノ色ヲナスガ、如ク、海中ノ春和ノ氣日ニ映ジテ、色ヲ現ズルナルベケ